

## 『これ1冊で合格！1級ボイラー技士 令和5年版』 に関するお詫びと訂正のご案内

『これ1冊で合格！1級ボイラー技士 令和5年版』の内容について誤りがありましたことを、心よりお詫び申し上げます。以下の通り訂正致しますので、お手持ちの本書に加筆訂正をお願い致します。

ご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございません。

よろしくお願ひ申し上げます。

|      |   |   |
|------|---|---|
| P72  | 誤 | ▪安全弁の吹出し圧力が設定圧力よりも低い場合、もしくは安全弁が設定圧力になっても作動しない場合は、一旦、ボイラーの圧力を設定圧力の80%程度まで下げ、調整ボルトを締めて、再度、試験をする。  |
|      | 正 | ▪安全弁の吹出し圧力が設定圧力よりも低い場合は、いったんボイラーの圧力を設定圧力の80%程度まで下げ、調整ボルトを締めて再度試験する。<br>▪安全弁が設定圧力になっても作動しない場合は、一旦、ボイラーの圧力を設定圧力の80%程度まで下げ、調整ボルトを緩めて、再度、試験をする。   |
| P186 | 誤 | 【問3】(1) A、Bが正しい。⇒1章3節_5. 炉筒煙管ボイラー (P.18～) 参照<br>D 加圧燃焼方式を採用し、燃焼室熱負荷を高く〔低く×〕して燃焼効率を下げた〔上げた×〕ものがある。   |
|      | 正 | 【問3】(1) A、Bが正しい。⇒1章3節_5. 炉筒煙管ボイラー (P.18～) 参照<br>D 加圧燃焼方式を採用し、燃焼室熱負荷を高く〔低く×〕して燃焼効率を上げたものがある。   |
| P191 | 誤 | 【問34】(3) が該当。⇒4章2節_6. ボイラーの取扱管理 (P.127～) 参照<br>(4) 貫流ボイラーについては、その伝熱面積に1/10を乗じて得た値を伝熱面積とするため、 $(165\text{m}^2 \times 1/10 \times 3\text{基}) + (40\text{m}^2 \times 1/10) = 53.5\text{m}^2$ となり、1級ボイラー技士をボイラー取扱作業主任者として選任できる条件を満たす。 |
|      | 正 | 【問34】(3) が該当。⇒4章2節_6. ボイラーの取扱管理 (P.127～) 参照<br>(4) 貫流ボイラーについては、その伝熱面積に1/10を乗じて得た値を伝熱面積とするため、 $(165\text{m}^2 \times 3\text{基}) + (40\text{m}^2 \times 1/10) = 499\text{m}^2$ となり、1級ボイラー技士をボイラー取扱作業主任者として選任できる条件を満たす。              |